



# 重誓寺 じゅうせいじ



■本堂 完工 御遷座法要(昭和52年5月15日)



■山門 平成15年3月新築

## 重誓寺の歴史

重誓寺は浄土真宗本願寺派の寺院である。その歴史を辿れば、治承4年(1180)高倉上皇、巖島行幸の途中淀川を下り、川尻の藤原國網の寺江山莊に泊まれたが、その山莊が繩御殿とも呼ばれていた。後に高倉上皇がそれを仏法弘通の場として、人々を現当安隱しならしめるように宜うた。そのお言葉を継承して、藤原國網、阿弥陀如来画像を安置して、白蓮院と名付け、大勢の人々が参詣していた。

その後、文暦元年(1234)國網、賢浄という僧を請じて人々を教化させていた。

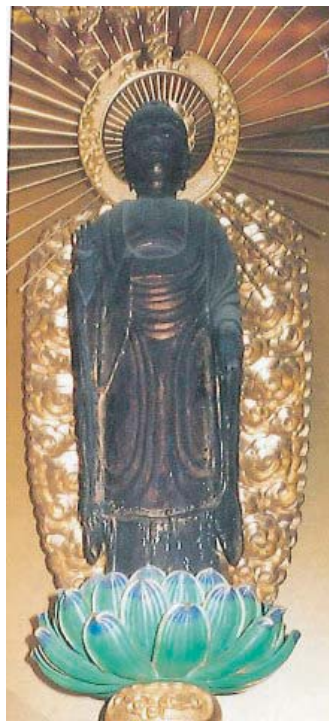
賢浄は島津友廣という鎌倉の武士であったが、親鸞聖人関東御化導の節、帰依してお弟子となり、法名を賢浄と賜わったと伝えられている。

開基賢浄より当院第10代宗賢の時代に、本願寺第8代蓮如上人、明応5年(1496)上町台地に本願寺の坊舎を建立された。その頃、蓮如上人が当寺にお立ち寄りされ、御名号を御染筆なし下された。また、境内に松と藤をお手植されたが、松は早く枯れ、藤はその一部が残っていたが本堂のすぐ裏にあったため昭和20年6月7日の戦災で本堂と共に焼けてしまった。昭和19年梵鐘が軍需の為供出された。



■第3回ワークショップでは、ご本尊を拝観させていただきました。

## 方便法身の画像／阿弥陀如来木佛



当院第11代西了に至り、  
本願寺 實如上人より  
「重誓寺」という寺号を賜わった。

永正17年(1520)方便法身の画像を(現存:  
写真左)、貞享元年(1684)阿弥陀如来木佛  
を(現存:写真右)本願寺より賜わった。

「重誓寺真宗関係史料」は、大阪市指定文化財(分類:  
指定有形文化財・歴史資料)として指定されています。

当院第13代浄念の時、本願寺と織田信長との間に石山合戦がおり約10年間本願寺は籠城した。その時、この榎並の村々より番衆や兵糧を送った。特に青田を刈って夜ひそかに運んだということで「青田刈り」という言葉が出来たそうである。

それを起源して本願寺よりこの榎並の寺、門徒にご消息が下され、江戸時代に榎並十四日講という講社が出来て、昭和の中頃まで、榎並(旭区、城東区、都島区)の浄土真宗各寺で毎年その御消息披露の法座が開かれていた。

明治5年に小学校の制度が始まったが、明治8年7月に寺内に中村小学校が設立され、大阪府第五大区3小区で江野、中(中宮)、南島(大宮)、荒生(生江)内代、関目の子弟が通学した。その後、明治13年3月に5番小学校、明治20年4月に中村簡易小学校と称し、明治22年7月城北尋常小学校が創立されるまで続けられた。

昭和20年6月7日、大阪市北東部の大空襲があり、寺は子弟焼夷弾で、本堂庫裡書院等全焼した。

その時、多くの寺宝、記録が消失したが、次のものが疎開により消失を免れた。

御本尊木佛(上記)方便法身画像(上記)、聖徳太子。七高僧画像、その他山門、喚鐘、大銀杏等、昭和52年門信徒の協力により現在の本堂が再建された。平成15年蓮如上人500回忌当寺28代住職継職法要の記念行事として山門など新築が行われた。 <島津>

### お話と拝観



平成19年9月7日(金)、3回目となる中宮・太子橋地域史づくりワークショップでは、中宮にある重誓寺(じゅうせいじ)にお伺いし、お寺の二十七代目である前住職にお寺や地域の歴史についてお話をさせていただくとともに、ご本尊や聖徳太子御影などを拝観させていただきました。